闇の中の光

秋桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇の中の光

【Ｎコード】

Ｎ０８８４Ｖ

【作者名】

秋桜

【あらすじ】

少年には記憶が無かった。その少年は光というものを知らずに暗闇の中ですごしてきた。そんな少年が主人公のお話。

光を求める少年（前書き）

ある日、人間と妖怪が戦争をし、見事に人間が勝利した。そして妖怪は滅びたと思われていた・・・・

光を求める少年

朝、起きるとそこはいつも通りの暗い世界。

「・・・」

この世界はいつも暗い。だから夜なのか朝なのかすら分からない。

「お腹へった」

僕のお腹は今空っぽに近かった。前の食事から何時間たったのかすら分からない。

「お腹へった」

それ以外言葉がでなかった。

すると・・・

「ご飯だよ」

女の子が入ってきた。

「お腹へったでしょ？」

いつも女の子は僕に話しかけてくれる。

そして女の子の手にはいつも僕のために用意された「ご飯」と「懐中電灯」だけだった。

その懐中電灯の明かりだけが僕の知っている唯一の「光」だった。

女の子が話している間ぼくはその光だけを見ている。

女の子がなにを話しているのかは全然分からない。

そして女の子が話し終えると僕はご飯を食べはじめる。

そして僕がご飯を食べ終えると彼女は帰って行く。僕は暗闇の中にまた閉じ込められる。

そんな日常が何日も続いた。

ある日僕が起きると身体に異変があるのに気付いた。

「痛っ！！頭がガンガンしてるなぁ」

朝から頭が痛い日というのは最悪だ（朝かどうかも分からないけど・・・）

そしてまた女の子がくる。

「うわぁぁぁ！！」

頭痛が今までと比べ物にならないくらいひどくなった。

「ちょっと大丈夫！！駿！！」

ーなに？駿だって！？どこかで聞いたことある・・・

「駿！！聞こえる！？駿！！」

「駿ってなに？」

声を振り絞ってきいてみる・・・

「！？なにってあなたの名前じゃない！！」

「名前だって！？僕の！？」

名前なんて僕ですら知らないのに何でこの子が知っているんだ？

ドクン！心臓が早くなったと思ったら急に意識が無くなった。

「眩しい・・・」

目を瞑っていても分かる。懐中電灯の光しか知らない僕の目に飛び込んだ大きな光。

かすかな光の中で僕は誰かが話しているのを聞いた。１人は良く知る女の子の声。もう一人は聞き覚えの無い低い男の声。

「ふざけるな！！コイツに関係する情報は一切話すなと言ってあっただろうが！！」

「ごめんなさい、でも名前くらい教えていると思って。」

「ふざけるな！！名前一つでコイツの記憶が戻ってしまうかもしれんだろう」

「ごめんなさい・・・」

「私はちょっと出てくる。コイツのことはお前に任せる。しっかり見張っていろ。」

「・・・はい」

そして女の子が近づいてきて泣いている。

僕はその顔を見てすべてを思い出した。

そうだ僕はただ記憶を消されて監禁されていただけなんだ・・・・・・

ただ僕が妖怪だから・・・。

光を求める少年（後書き）

この作品は私の最初の作品です。なるべく「次の話が気になる」という感じに作ってみました。
「次の話が気になる」と思ってくれれば作者としてとてもうれしい限りです。読みにくいところも多々あると思います。どんどん作品を書いていくにつれて読みにくい部分を減らしていくよう努力いたしますのでどうぞよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0884v/

闇の中の光

2011年10月9日12時00分発行